

玉里文庫に眠る日本の歴史に迫る! ~^{かめいしん}亀井森先生研究室訪問~



島津国史(しまづこくし)島津久光自筆

写真で私たちが手にしている本です。『島津国史』とは島津家初代の忠久の治承3年から23代当主の重年の死去の宝暦5年までの歴史を記した書物であり、鹿児島大学は久光自身が写した写本を所蔵しています。几帳面な字で筆写されていることから、久光の勤勉さがうかがえるということを学びました。

大石兵六夢物語(おおいしひょうろくゆめものがたり)

『大石兵六夢物語』は近世薩摩の代表的な物語であり、絵巻をもとに毛利正直が作成したものだと考えられています。薩摩の侍である大石兵六が吉野に出没した化け狐を退治するという物語であり、彼の愚直な姿が当時の政府への批判をあらわしているといわれています。字だけでなく様々な妖怪の挿絵を見ることができて面白かったです。また、鹿児島県民おなじみのお菓子の兵六餅のモチーフになっているという話も興味深かったです。

蘭語以呂波引(らんごいろはびき)

当時は中国とともに、オランダが日本にとっての貿易相手国であったので、オランダ語を学ぶための今でいう蘭和辞典のようなものです。853語が収録されており、ほとんどが日常的な単語でした。本に押されている印から、島津斉彬の所蔵本だということがわかっています。もしかすると、この本を斉彬が手にとって勉強していたかも(^^)

他にも興味深い貴重書がたくさんあり、昔の日本の様子など多くの学びを得ることができました。また、これらの貴重書が災害に備えた保管庫に所蔵されていると知り、歴史を後世に伝え続けようとする人々の強い意志を感じました(写真後方のドアが保管庫の入り口です)。今回の訪問を通して普段拝見することのできない貴重書に触れることができ、今後日本の歴史を学ぶことがとても楽しみになりました。

6月30日(月)、鹿児島大学教育学部准教授亀井森先生の研究室を訪問しました。亀井先生は日本近世文学の研究をされています。「sci-甲!」は、主に理系の研究について紹介してきましたが、国文学の研究について紹介するのは今回が初めてです。

まず訪れたのは鹿児島大学附属図書館です。鹿児島大学が所蔵している貴重書の中から12点もの貴重書を見せてくださいました。

その中でも、特に印象に残った貴重書3冊をご紹介します。

現代では、本は縦長の形が一般的ですが、こんなふうに昔は正方形だったそうです。ちなみにこの本は、島丸光広の直筆で、当時小判30両の価値(今だと360万!?)。卷子本や袋とじ、ノートのように真ん中を糸でとじている本もあるそうです。

これは版木といって、木版印刷に使ったものです。文字や絵が両面に彫ってあります。



これらの貴重書は、ネット上でも閲覧は可能です。興味のある人はHPをチェックしてみてください。

「古典の研究は、『価値付け』にある」「知識が増えて繋がっていい研究になる」

貴重書を閲覧した後、亀井先生にお話しをお聞きしました。

最初に、古典の世界もデジタル化が行われているというお話しをしてくださいました。貴重書がネット上で閲覧可能なように、現在ではネットで何でも検索して見られるようになっています。先生は古典とデジタルの関係について、『『検索しても出てこない』から『世界には存在しない』というのは錯覚である』『デジタル化によって共有の速度が加速しているが、精度にもばらつきがあるように危うさもある』『古典の研究において重要であるくずし字を読めるようにする翻字と呼ばれる作業は、まだ AI に人間の能力が勝っている』ということをお話してくださいました。AI に仕事を取られていくと言われているこの社会で、まだ人間が勝てる分野があると聞いて、驚くとともに人間の可能性を感じました。また、古典の研究については、「古いものの価値を見極めるため、知識が武器になるが、とはいえ、語学・会話・コミュニケーション・社会性も必要であるから、勉強だけでは成り立たない部分もある」とのこと。ほかの分野でもそうですが、どれか一つだけで良いということではないので、様々なことを満遍なく学習したり経験したりして自分のものにすることが大切だと思いました。



そして、古典の研究は、繰り返し引き継がれるなかで古いものが価値を持ち、誰も手を付けていないものを発見してその価値付けをすることが大切なので、年を重ねていくとさらに良い研究になっていくそうです。これが文系と理系の違いだという言葉に、「確かに！」と思わずうなずいていました。また、研究を続けていくことで、自分の知識がたまり、違った知識もつながっていくそうです。これは理系教科でも変わらないのではないのでしょうか。



写真上：国語科資料室にて
後ろの本棚にあるのは全て辞書！

また、先生が研究者を目指されたきっかけは、古典が読めるようになるかっこよさを身に着けたくなったことだそうです。

最後に先生は、視野を広げるために鹿児島の外に出て、あえて外から鹿児島を見ることも大切だと教えてくださいました。

私たちも自分のやってみたいこと、見てみたいものに積極的に手を伸ばしてみることが大切です。手を伸ばした先には世界が広がっているのか。そんなワクワクがあった素晴らしい体験でした！亀井先生、お忙しい中本当にありがとうございました。

①聞いてびっくり！「昔も修正液があった！？」

墨で書く場合、書き間違えたら新しい紙に書き直すしかないと思っていたら、なんと昔も修正液のようなものがあったのだとか。古書を見ると、貝殻を粉状にしたものを糊で貼って書き直しているそうです。

②くずし字チャレンジ！～何と書いてあるか、わかった人は SSH 推進室まで。先着 1 名に何かあるかも！?



(字は、「電子くずし字字典データベース」[東京大学資料編纂所]より引用しました)